

裏路地探険

参勤交代の大名行列が
通った歴史街道。

「ヨイ、ヨイ、ヨイ」

ネットイ相撲のかけ声

響くホタル王国を歩く。



宝積寺(ほうしゃくじ)から眺める奥米地の景色。元は口米地地区にあったが延宝7年(1679)にこの地に移ったとされている。写真奥の山には水谷滝があり、その辺りに水谷神社があったが、大雨で田んぼの真ん中まで流され、現在は「水谷神社跡」として小さな祠が作られている。そこから宝永7年(1710)に今の水谷神社の場所へと遷座された。



レトロな佇まいが目を引きほたるの館。大正末期に建築された旧養父町役場を移築した。館内にはオーガニックカフェがある。



6月になるとホタルが飛び交うメインストリート「ふれあい小径」。川のせせらぎが心地いい。



柱が塗り込められた大壁。外気の影響を受けにくい。

養蚕農家の特徴が残る家屋。越屋根(左)や掃き出し窓(右)と呼ばれる縦長の窓。



田和神社
ネットイ相撲と同じ日に
笹おどりが奉納される。

芝居小屋があった場所。
公民館には花道があり、
楽屋として使われていた。

階段の中腹にある石柱。年号が
刻まれており「水谷神社の中で
最古のものだ」と村崎さん。

秋祭りで子ども相撲をする
土俵。段になった土俵が
残っているのは珍しい。

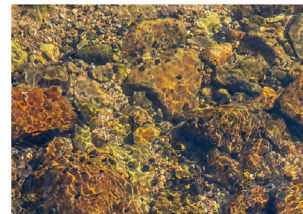


毎年10月の体育の日水谷神社で行われ
ている養父のネットイ相撲。青色の神姿の
舞い手男性二人が、上半身裸になり「ヨイ、
ヨイ、ヨイ」の掛け声で四股を踏む姿が特
徴。土俵もなく行司もいない相撲で、勝ち負
けの勝負もない。国選無形民俗文化財、
県指定文化財に指定。

戦時中はお堂の前に
下屋を作り、疎開者が
住んでいたそう。

あごなし地蔵
つらい歯痛にご
利益があると伝
えられている。

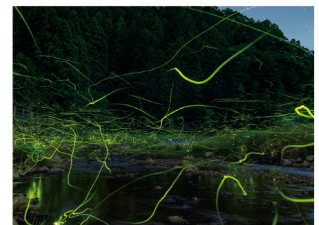
水谷神社跡



(左)石の上に見えるボツボツとした黒い点はホタルの
エサとなるカワニナ。よーく川の中を見るとたくさんいるの
がよくわかる。(下)ホタルの養殖を行っているビオトープ
「ほたるの水辺公園」。今後、池に水の流れを作り、自然
の川に近い環境に整えていく予定とのこと。



奥米地ではゲンジボタル
ヘイケボタル、ヒメボタル
の3種類のホタルを見るこ
とができる。



円山川沿いの右岸道路を車で走っていると出迎えてくれる巨大な鯉のオブジェ。オブジェを過ぎたところにある米地橋の交差点を北東へ進むと、養父市奥米地地区へとたどり着く。奥米地はゲンジボタルの里として知られており、6月にはほたる祭りが開催され、毎年多くの人が訪れている。「こはかつて出石藩の参勤交代の大名行列が通った歴史街道なんです」とは奥米地ほたるの里づくり協議会会長の村崎定男さん。

に行われていたという。出石は広々とした耕地はあったものの、山に遠く、牛の飼育に必要な牧草地に恵まれていなかった。それゆえ、牛を飼う農家はほとんどなく、奥米地の牛を借りて田植えを行っていた。貸し出し期間は11月頃から5月頃まで。5月は養蚕業が繁忙期を迎え、牛を使うことがなく、田植えが始まる頃にちょうど牛が返ってくる。田植えの時期のズレがこの牛の貸し出しを可能にしており、牛のやりとりは昭和40年くらいまで続いていたそうだ。

山陰街道の宿場町として栄えた同市の養父市場には、参勤交代の際に宿泊する「旧本陣屋敷」があり、奥米地の街道はそこから出石への帰り道として使われていた。伊能忠敬や桂小五郎もこの街道を通ったとの記録が残っている。

歩きながら高川川にふと目をやると、穏やかな流れの中に黒い小石のようなものがたくさん散らばっているのを見つけた。

のんびりとした山里の風情が残る集落を歩くと、壁に柱が塗り込められた大壁や、抜気と呼ばれる越屋根など、養蚕農家の特徴が残る家屋を見ることが出来る。かつては養蚕と稲作、但馬牛の飼育が生業の中心だった。農業機械がなかった時代、但馬牛は田畑を耕す役牛として飼われていた。子牛は売ると大きな収入になったため、牛市へと出していた。

「川に住んでる幼虫たちは4月後半の夜になると一斉に陸に上がってくるんです」。陸に上がる際に幼虫も成虫のように光るため、一斉に上陸する景色は幻想的なのだという。

奥米地は出石との関わりが強く、出石の農家への牛の貸し出しが盛ん

大雨や台風などで幼虫やカワニナが流されてしまい、ホタルの数が減少することがあるため、近年ではホタルの養殖にも力を入れているそうだ。

「出現数は気候に影響するため、いつ来てもホタルがいるという訳ではないんです。ホタルの里としてアピールしている以上、その期待には応えたいとの想いで取り組んでいます」と村崎さんは言う。

また、水谷神社に伝わる「養父のネットイ相撲」は300年以上の歴史がある相撲神事で、四股を踏むことで悪霊を鎮め、五穀豊穡を願う。「足踏みを何度も繰り返す草から、現代の相撲の原型と言われ、東京の国技館で披露したこともありま

す。高砂部屋力士が神社を訪れ、相撲の所作を奉納してくださいました」と足立さん。

平安時代に朝廷儀式として行われていた節会相撲の名残だと伝わっており、奥米地の人々に大切に守られている。

春は桜、夏はホタル、秋は紅葉、冬は雪景色が楽しめる奥米地。取材中に「ここには桜を植えた」「この辺りの木を切つて整備したい」「あそこには桜の木を150本植えた」と話す案内役の姿から、未来を見据えた村づくりへの熱い想いが伝わってきた。桜やホタルが楽しめるこれからの季節。居心地のよい里山へ、足を運んでみてはいかがだろうか。

裏路地探険
参加者募集休止のお知らせ
新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、参加者の募集はしばらくのあいだ休止とさせていただきます。募集を再開する際には、こちらの募集欄にてお知らせいたしますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。